

日本の医療機器市場の長期動向Ⅱ ～薬事工業生産動態統計 2011 年を加えたフォローアップ版～ (エグゼクティブサマリー)

中野 壮 陸 (医療機器産業研究所主任研究員)

2009 年 12 月末に「新成長戦略(基本方針)～輝きのある日本へ～」が閣議決定され、ライフ・イノベーションによる健康大国戦略として医療機器産業を成長戦略の柱としたことや、その後 2012 年 6 月には医療イノベーション 5 か年戦略が策定されるなど医療機器産業における環境面の大きな変化があった。

そこで、リサーチペーパー No. 2「日本の医療機器市場の長期動向 ～薬事工業生産動態統計 1984 年～2008 年を用いて～」をベースとして薬事工業生産動態統計の 2009 年から 2011 年のデータを用いて国内医療機器市場の動向を把握に努めた。

2010 年、2011 年と国内市場が増加しており、2011 年の国内市場は過去最高の 2.4 兆円となった。同時に国内製造出荷額も増加している。即ち、国内市場を押し上げたのは、国内企業による生産増加であり、2008 年の海外企業シェアが 49.0%とほぼ半数は海外企業のシェアとなっていたが、2011 年には海外企業シェアが 44.4%と減少しており、長年一貫して海外企業シェアが増加していたものが高止まりし、国内企業シェアの回復にも繋がっている。より具体的には、生体内移植器具「ステント」、チューブ及びカテーテル「滅菌済み血管処置用チューブ及びカテーテル」、採血・輸血用、輸液用器具及び医薬品注入器「輸液ポンプ」及び「手動式医薬品注入器」、注射器具及び穿刺器具「その他の滅菌済み注射針」、注射器具及び穿刺器具「プラスチックカニューレ型滅菌済み穿刺針」において、市場の伸びと国内企業シェアの増加が見られた。

これらが治療機器であることを考慮すれば、従来治療機器が弱いと指摘されてきた日本の医療機器産業界に回復傾向が見受けられたと考えている。

一方、中分類レベルでは、市場が成長している 5 分野(①コンタクトレンズ、②注射器具及び穿刺器具、③医用内視鏡、④生体物理現象検査用機器、⑤手術用電気機器及び関連装置の)においても国内企業のシェアが増加していない、あるいは低下している状況もあり、わが国の競争力強化の観点からはこれらも伸ばしていくことを考える必要があるように考えられた。

本リサーチペーパーは、研究上の議論のために配布するものである。本リサーチペーパーを研究上の議論に引用、利用することは妨げないが、引用、利用または参照等したことによって生じたいかなる損害にも著者、財団法人医療機器センター及び医療機器産業研究所のいずれも責任を負いません。

本リサーチペーパーに記された意見や考えは著者の個人的なものであり、財団法人医療機器センター及び医療機器産業研究所の公式な見解ではありません。

本紙はサマリー版です。完全版は研究協力制度にお申込み頂いた方のみ配布しております。

【内容照会先】

財団法人医療機器センター附属医療機器産業研究所 主任研究員 中野 壮陸
電話：03-3813-8553 FAX：03-3813-8733 E-mail：mdsi@jaame.or.jp